

ルクセンブルク経済・金融情勢（2017年11月）

1 統計関連

- 2017年11月のインフレ率は年率で1.54%（前月1.90%）。（12月6日付統計局プレスリリース）
- ルクセンブルクにおける本年のインフレ率は1.7%、そして翌年は1.4%の見込みであると当国統計局は公開した。なお、ユーロを使用している国のインフレ率は平均1.5%である。（11月8日付 Wort 紙電子版）
- 2017年10月の失業率は5.8%（前月5.9%、前年同月6.3%）。（11月11日付統計局及び職業安定所プレスリリース）
- 2017年11月の消費者信頼感指数は+19（前月+17）。（12月4日付統計局プレスリリース）
- 2017年10月の求職者数は前年同月比で6%下がった。（11月20日付 Wort 紙）
- ルクセンブルクの携帯通信規格4Gネットワークが、世界で6番目に早いとOpenSignal社によって明らかにされた。また、4Gへのアクセスに関しては国面積の79.55%にて可能であり、これは世界で22番目である。（11月2日付 Wort 紙電子版）
- ルクセンブルクの経済成長は2017年に3.4%増、2018年に3.5%増、2019年に3.3%増になると見込まれており、ユーロ圏の平均である、2.2%増、2.1%増、1.9%増を上回ると予測されている。（11月9日付 Wort 紙電子版）
- Brexitにあたって、ルクセンブルクは欧州で9番目に魅力的な都市として、PwCとthe Urban Land Instituteによって格付けされた。しかし同時に、ルクセンブルクは生活にかかるコストが高く、住宅や学校をはじめとしたインフラの不足が目立っていると同社は指摘した。また、2018年に賃貸不動産の価格が上昇すると予測される欧州で4番目の都市としてランク付けされた。（11月3日付 Wort 紙電子版）
- ルクセンブルクの労働者のうち72%が自分の仕事の質が平均あるいはそれ以上と感じており、昨年の68%よりも上回る結果となった。（11月13日付 Wort 紙電子版）

2 政府等関連

- ルクセンブルク政府がエストニアから再生可能エネルギーを購入し、1メガワット時あたり15ユーロ支払うことが決定した。2018年に300ギガワット時、2019年と2020年にそれぞれ400ギガワット時輸入するとされており、計1050万ユーロの支払いになると見込まれている。（11月9日付 Wort 紙電子版）
- ルクセンブルク商工会議所にて開催された、鉄鋼建築関連のカンファレンスで、鉄鋼はより経済的で環境に優しい建築物を建てる際に役に立つとし、第三次産業革命（Third Industrial Revolution）プロジェクト（当館注：2015年に当国経済省及び商工会議所が共同で立ち上げたプロジェクト。既存の経済モデルを、ICT、エネルギー及び交通関連

をインターネットワークの一部として含むことで、将来の世代のためにより持続可能なものへと変えていくプロジェクト。)の実現につながると議論された。(11月9日付 Chronicle.lu)

● 宇宙資源開発関連の産業が、ルクセンブルクのGDPの約2%を占めており、ルクセンブルクは今やヨーロッパにおける宇宙資源開発の中心地となったと、シュナイダー経済相は11日に米国テキサスで行われたカンファレンスで述べた。(11月13日付 Wort 紙電子版)

● ルクセンブルク政府と Spire Global 社(当館注:アメリカに本拠を置く、衛星を用いたデータを管理する会社)が、同社の欧州拠点をルクセンブルクに置き、エンジニア、データ分析、インフラ整備とビジネス戦略面における発展を共に目指すことで合意した。(2017年11月15日付政府広報)

● ルクセンブルク証券取引所のグリーンファイナンス等専門プラットフォーム(LGX: Luxembourg Green Exchange)の創設から1年経ち、年間取引額が世界で取引されているグリーンボンド(当館注:世界全体で取引されているグリーンボンドは客年は934億米ドル。LGXでの取引額はおよそ630億ユーロ。)の約半分以上となった。なお、年間取引額は前年比で63%増である。(11月21日付 Chronicle.lu)

● ルクセンブルクは、Brexit 後の欧州銀行監督機構(EBA)の招致を長い間働きかけていたが、最終的にパリに移転することが決定した。(11月20日付 Wort 紙電子版)

● シュナイダー経済相は越境労働者に対する「越境税(transnational taxation)」の導入を予定していることを明らかにした。当越境税は居住国に関係なく、ルクセンブルクで労働しており、ルクセンブルクの法によって所得税が課されている労働者を対象とするものである。当越境税の導入によって、ドイツ、フランス、ベルギーからの越境労働者によってもたらされる渋滞が改善される見込みであり、関係各国の政府との話し合いがもうけられる予定である。(11月21日付 Wort 紙電子版)

● ルクセンブルク経済省は欧州宇宙機関(ESA: European Space Agency)との間で、ルクセンブルクの新卒の学生を宇宙関連の様々な分野で専門的な経験を積ませるためにESAでのインターンシップに参加させることで、合意をした。この合意に沿って、2017年は3人の若者がESAの欧州宇宙研究及び技術センター(ESTEC: European Space Research and Technology Centre)にインターンとして参加することが決まった。(11月22日付 Chronicle.lu)

3 企業関連

● Flybe 社がルクセンブルクーマンチェスター間のフライトを2018年3月以降停止する可能性がある。もし、Flybe 社がこの便を完全に停止する場合は、Flybe 社のルクセンブルクからの完全撤退を意味している。(11月13日付 Wort 紙電子版)

● Luxair 社が、2018年5月9日より6月20日までの間、アイスランドの首都、レ

イキャビクへの直行便を週一回飛ばすことを明らかにした。飛行時間は3時間半となる。

(11月16日付 Wort 紙電子版)

● カーゴルクス社が、2017年の赤字額が当初の予測よりも8400万ユーロ低くなる見込みであるとし、今後2から3年の間は毎年40から50名のパイロット増員が必要となるため、2018年には60名のパイロットを採用する予定であると明らかにした。

(11月23日付 Wort 紙電子版)

4 大臣等動向

● 6, 7日 グラメーニャ財務相、欧州財務相会合 (Ecofin) 出席のためブリュッセル訪問。(11月3日付政府広報)

● 元NASAエイムズ研究センター (Nasa Ames Research Center) パートナーシップ部門長の Gary Martin 氏がルクセンブルク経済省の宇宙関連部門のアドバイザーに就任した(11月14日付政府広報)

● 20, 21日 ギョーム皇太子殿下、グラメーニャ財務相率いる財務ミッションにて伊国ミラノ、トリノ訪問。(11月21日付 Chroniql.lu 紙)

● 25日ー30日 アンリ大公殿下 (及びアレクサンドラ王女) が国賓訪日し、シュナイダー副首相兼経済相並びにグラメーニャ財務相が率いる経済ミッションが同時期に日本を訪問(11月25日ー12月1日付主要各紙)

※当国政府機関の公開資料や各種報道等の公開情報を取りまとめたもの。